

6. <おらが町の下水道アウトカムのすすめ>

世界の下水道は、その国の気候によって、経済状況によって、歴史によって、様々な顔をしています。私が2年半仕事をしたタイの下水道は、「都市排水下水道」で、し尿は各戸に設置された腐敗槽で嫌気処理をされ、雑排水と共に雨水排水管に流され処理されます。インドの下水道は、「灌漑下水道あるいは水資源下水道」で、処理水を農地の灌漑用水として有効活用しています。イギリスの下水道は、100年以上の歴史を持つ「成熟した下水道」であると共に、民営化された「新しい下水道」でもあります。

さて日本の下水道はというと、大都市の合流式下水道に代表される歴史ある下水道の面を持っていますが、昭和45年の公害国会から本格的に下水道投資がなされた分流式の「若い下水道」といえるのではないのでしょうか。

そして現在、下水道の普及率は平成13年度末で63.5%となり、日本の下水道は「量から質の時代」「青年期から壮年期の下水道」へと移り変わりつつあります。これは、今まではともすれば普及率と事業費に目が向きがちであったのが、これからは下水道が整備されることによる成果、下水道が発揮する多様な機能にスポットライトがあたりということだと思えます。この成果を「アウトカム」といい、国交省でも多くのアウトカム指標を次期下水道長期計画に盛り込もうとしています。

具体的には、従来の施設整備目標（下水処理人口普及率、雨水対策整備率等）のほか、「合流式下水道改善面積比」「高度処理人口普及率」「下水道負荷削減率」などの下水道整備に関する指標を提示しています。また、都市の水・緑環境の分野では、「一人当たりの水辺距離」など、省エネ・地球温暖化対策の分野では「処理施設の消費電力量、温室ガス削減量」など、施設の維持管理の分野では「改築更新が必要な施設数」「管渠老朽化に伴う道路陥没の年間回数」、その他「経営健全度」「処理水の利用率」、他事業連携分野では「河川改修率などを加味した雨水対策整備率」「農村集落排水事業などを含めた汚濁負荷削減率」などの指標も検討されています。

これだけ指標が出てくるということは、従来の指標だけでは壮年期の下水道を表せないということだと思います。一方、こんなに指標があると訳が分からなくなってしまうので、各都市の下水道が全ての指標に付き合うことは出来なくなるのではないのでしょうか。

世界に様々な顔を持つ下水道があるように、全国一律の画一的な下水道から脱皮し、日本各地でおらが町の下水道に合った顔、おらが町のアウトカム指標を持つのも面白いと思います。そういうアウトカム指標を作り出す必要があるのではないのでしょうか。

< 高橋 春城 >

※No. 7号(2002/9/17)に掲載